

序文 年報発刊にあたってご挨拶

長崎大学第二内科教授 迎 寛

いよいよ年報を出す時期がきました。河野 茂先生が教授の時代の年報は表紙に原 耕平先生が書かれた絵をずっと載せておられましたが、今回からは河野 茂先生の書で表紙を飾ることに致しました。2017年の1年間もいろいろなことがありました。医局にとって一番大きな出来事は昨年10月に河野 茂先生が長崎大学学長になられたことです。第二内科出身の先生で学長になられたのは初めてのことで、第二内科にとってもとても素晴らしい出来事でした。10月23日に料亭橋本にて、大学関係者を中心に学長就任祝賀会をさせていただきました。また8月15日には2016年7月3日にお亡くなりになられた原 耕平先生の精霊流しを原家と長崎大学第二内科の同門会と合同で執り行うことができました。激しい雨の中でしたが、原先生の奥様やご家族、また河野 茂先生、田代隆良先生、浅井貞弘先生、朝長昭光先生や岡三喜男先生などの同門の先生方をはじめ、愛知医科大学の三嶋廣繁先生などの他大学の先生方などにも参加いただき、とても素晴らしい精霊流しになりました。この場をお借りして、ご協力いただきました医局員や同門の先生方に感謝申し上げます。

私事では、第65回日本化学療法学会西日本支部総会の会長として10月26～28日まで長崎ブリックホールにおいて学会を開催することができました。第87回日本感染症学会西日本地方会学術集会（会長 草野展周先生）と第60回日本感染症学会中日本地方会学術集会（会長 飯沼由嗣先生）と共同開催でしたが、1,200名を超える多くの先生方に参加いただき、とても盛会とすることができました。これも同門の先生方や医局員のおかげだと感謝致しております。

医局に関してですが、今年度は呼吸器内科に5名、腎臓内科3名の入局がありました。皆とても優秀であり、将来が楽しみであります。来年度も呼吸器内科に5名、腎臓内科に2名の入局が決まっており、これも教員や医局員による、学生や研修医に対する熱意ある指導の賜物であると思っております。医療界では様々な逆風が吹いておりますが、2018年4月から始まる新専門医制度も地方、特に内科系にはとても厳しいものとなりそうですが、来年度は長崎大学の内科系に全体で33名希望があり、何とか踏ん張っている状態です。第二内科にとっても入局者を増やすことが地域医療への貢献の維持を含め、すべての面で一番重要な課題と考え、様々なことを行っていますが、回診時に学生が勉強になるように教員に隣に座ってもらい、直接、説明をしてもらう試みはとても学生に評判がよく、6年生での高次臨床実習で第二内科を希望する学生がとても多い状態が維持できています。

今後とも、同門の先生方にはご指導・ご鞭撻のほどをお願いするとともに、皆様のご健勝やご活躍を祈念しながら、今回の第二内科年報の序文とさせていただきます。